

■斯波義将 武将，管領。將軍義満に拔擢されて，輔け続け，室町幕府の政治組織の基盤を揺るぎないものとした。

しばよしまさ

観応の擾乱始1350＝ 生。_足利氏一族斯波高経の四男。

観応の擾乱終1352＝ 2歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1359＝ 9歳：

父高経とともに將軍足利義詮を助け，室町幕府政治を軌道に乗せたことから，

・ ・ ・ ・ ・ 1362＝12歳：

早くも治部大輔となり，將軍義詮の代理として十楽院法会にのぞんだ。室町幕府の執事に補任され，評定始に出仕。父が三男氏頼より四男義将を愛したために，氏頼を推す佐々木道誉との対立に巻き込まれ，

・ ・ ・ ・ ・ 1366＝16歳：

將軍義詮は父高経を追罰，父とともに越前に逃れ，杣山城・栗原城に立て籠った。

細川頼之管領1367＝17歳：細川頼之を管領に指名して，義詮が死去。高経が杣山城で没したため，義将は赦免されて幕府に復帰したが，越前・若狭・越中などの旧斯波氏分国はすぐに返還されず。

足利義満將軍1368＝18歳：この年，足利義満が將軍となる。將軍越中守護にだけ還補された。

高麗倭寇[㊦]1377＝27歳：_分国越中で国人反乱が起り，この鎮定をめぐって管領細川頼之と対立。

義満親政始・1379＝29歳：

*土岐頼康・京極高秀らと細川頼之を京から追放。將軍義満により管領を命じられ補佐することになる。以後，12年間，管領として將軍義満の統治を支え，室町幕府の政治組織の基盤を揺るぎないものとした。とくに前管領細川頼之の職掌を受け継ぎ，行政・裁判機構の整備にはめざましいものがみられた。

義満准三后・1383＝33歳：

子孫への訓戒として「竹馬抄」を著す。2度めの管領在任中にあたり，文武兼備の教養を武士の基本として，心を正直にした上で，主君への奉公，他人への采配などが詳しく述べられている。

南禅寺別格・1386＝36歳：

土岐氏の乱・1390＝40歳：

_山名氏・土岐氏の内訌に將軍義満が介入，再び細川頼之を起用したため，義将は反対し，

明德の乱・ ・ 1391＝41歳：

_管領を辞任，分国越前に下る。

南北朝合一・1392＝42歳：

_頼之が死去すると，

・ ・ ・ ・ ・ 1393＝43歳：

_再び管領に補任された。これは將軍義満が細川氏勢力の増大をおさえる必要からの措置であった。

義満出家・ ・ 1395＝45歳：

*將軍義満が出家すると，義将も薙髮。右衛門督に任じられ，一条経嗣はこの異例のことを「武臣右衛門督未聞事」と評している。將軍義満との結び付きを確かめることができる。

倭寇禁圧公約1398＝48歳：

_この年まで管領として在任。

応永の乱・ ・ 1399＝49歳：

_大内義弘が和泉堺で反乱をおこした際(応永の乱)には，管領畠山基国とともに出陣し，活躍した。

日明貿易成立1404＝54歳：

足利義満没・1408＝58歳：

*義満の死にともない，朝廷から太上法皇の号を追贈する議がもち上がったが，先例がないとこれを義将は諫めたという。また義満が寵愛した義嗣への家督相続を止め，義持を家督にすることを主張。義将が幕府・將軍家に対して大きな影響力をもっていたかがうかがわれる。

持氏鎌倉公方1409＝59歳：

子の管領斯波義教に替えて，將軍義持から，三たび管領に補任されると，ただちに朝鮮との通交を開始させ，海賊の禁圧ならびに海賊の慮掠した朝鮮人の送還，朝鮮で開版された大藏經の領与などを求めた後，孫義淳と管領を交代。その後も將軍義持を助け，従属的な対明貿易を改めさせるなど隠然たる力をふるい，

・ ・ ・ ・ ・ 1410＝60歳：

_没した。錦小路殿とも称す。